

第5回 立野小学校 授業研究会

講師

横浜市立恩田小学校	校長	寶來 生志子	先生
横浜市立丸山台小学校	校長	倉本 惠	先生
横浜市立横浜深谷台小学校	校長	角井 治朗	先生
筑波大学附属小学校	教諭	辻 健	先生

授業者 1年2組 仲真 汐香 生活科「はなとなかよしだいさくせん」



観察したことを友達と伝え合う活動を通して、花の特徴や変化、成長の違いや同じところに気付き、花が咲くことを願って繰り返し花と関わろうとすることができるような授業をしました。

子どもたちからは「みんなの花をもっと観察したい。」「花を咲かせるために朝にいっぱい水をあげたい。」などの振り返りがありました。

講師の先生からは、「花の様子をじっくり観察し、子どもらしい表現で発見を伝えあったり、友達の言葉を自分の発見とつなげて考えたりしている。」との評価をいただきました。

授業者 2年2組 小倉 智弘 生活科「おいでよ！ムシランド！！」



「虫はどのようなおへやだと元気になるのか」について今までの経験をもとに伝え合い、自然環境と虫かごの中をつなげて考えることができるような授業をしました。

世話をしている虫は、アリ、カタツムリ、ダンゴムシ、テントウムシ、バッタ、キリギリスの6種類が主で、それぞれの虫かごの中や世話の工夫を比べて、「すきなえさをあげるといい。」「草むらでつかまえたから、似ているお部屋にしないとイケない。」「雨の日にカタツムリをよく見かけるから霧吹きで濡らしてあげる。」と、虫たちが実際に住んでいる自然環境とつなげて考える姿が見られました。

講師の先生からは、「子どもたちが虫をよく観察し、世話をすることを通して愛着をもつことができている。」との評価をいただきました。

授業者 3年3組 山田 拓道
理科「身の回りの生物」

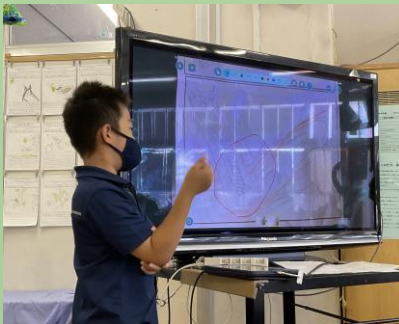


モンシロチョウの観察を通して、昆虫の体のつくりについて学習しました。それを基に他の生き物についてもどのような体のつくりになっているかを調べる授業をしました。

一人ひとりが生き物を観察し、「足が6本だった。」「体のつくりがモンシロチョウと同じように3つに分かれていた。」「足の数が6本じゃない生き物もある。」と気付いたことを、全体で共有しました。

講師の先生方からは、「子どもたち一人ひとりの観察する力がついてきている。」との子どもたちへの評価をいただきました。

授業者 4年1組 長谷川 椋太
理科「ヒトの体のつくりと運動」



「重い物を持つときのヒトの腕の筋肉はどのように動くのか」という疑問から、実際に体を動かしたり、これまでの生活経験を思い出したりして予想し、その予想を基に話し合いました。

実際に重い物を持ってその時の筋肉の様子を触ったり、見て確かめたりしました。「実際にやってみて、腕を曲げているときに触ってみたら、曲げているときの方が、腕が硬くなっていることが分かった。」「腕を伸ばしている時は上側の筋肉に力が入っていないから長細くなっている。」などと、気付くことができました。

講師の先生方からは、「買い物などの生活経験や、実際に体に触ることで根拠のある予想ができています。」との評価をいただきました。

授業者 6年1組 堀 優太
理科「植物の養分と水の通り道」「生物と環境」



デジタル気体チェッカーと専用アプリを用いて、植物が二酸化炭素を吸い酸素を出していることについて、複数の結果をもとに考察し、表現するなどして問題解決することができるような授業をしました。

人の呼吸、燃焼による気体の変化など、既習のデータを関係付けることで、「お互い生きるためにしていることが繋がっている。」「人と植物とのバランスが大事なんだ。」と、考えていきました。

講師の先生からは、「学習履歴をもとに考えられている。」「単元を超えて学びをつなげられている。」との評価をいただきました。